

令和7年度「市民と議会の対話集会」記録

産業建設委員会

- 開催日時 令和7年11月4日（火） 14：00～16：00
- 開催場所 苗木交流センター 会議室1
- 懇談先 市内農業者（団体・個人）
- 出席議員 産業建設委員
岡崎隆彦（委員長）、松崎誠（副委員長）
鷹見信義、田口文数、牛田敬一、吉村俊廣、小池菜摘
- 懇談テーマ 農業経営の現状と課題について
- 懇談内容 農業経営にあたり実際に困っていることについて

参加者A（農事組合法人）

- ・基盤整備計画の実施を早くしたい。全体の耕作面積は64haと広範囲。
- ・1圃場あたりの面積が小さな耕作地で、当集落は25ha、圃場枚数307枚。
- ・圃場を大きくし、効率化を図るべく市に申請をしているが、進んでいない状況。
- ・肥料やJAの施設利用料等の農業資材の高騰。
- ・担い手が現在約15名であるが、先細りが見えている。
- ・農機機械の費用が大きい。補助制度を望む。

参加者B（農事組合法人）

- ・昭和の40年代に土地改良第二次構造改善事業により、圃場が大きくなる事で機械を共同で利用する任意組合（当初9集落：350軒）を立ち上げた。
- ・昭和60年代に農家約500となり、生産調整で米の作れないところを大豆や麦で農地を守ってきたが農家や畜産農家も含め高齢化となり、当組織に委託が集まってきた。
- ・平成18年、農事組合法人を立ち上げ、作付農地55ha、畦畔を含め80haを管理。
- ・ため池が260～70あり、施設整備に経費がかかる。
- ・漏水対策に約1,500万円。（中山間直接支払制度、多面的交付金）
- ・獣害対策の補助金がほとんどない。限度額2万円で1／3補助。
- ・米が高くなっても、農家の意欲が低くなってきている。農業振興として、行政に考えてもらいたい。
- ・公式情報が農家に伝わっていない。地域特有の問題を行政が各地の情報を集約しながら指示してもらいたい。
- ・担い手、後継者不足。

- ・実家と農地、山林等の財産を売ってしまいたい人が目立ってきた。平地のど真ん中に他人が購入すると農業経営がまとまらない。

参加者C（農事組合法人）

- ・平成26年に立ち上げ、20名で活動。
- ・減反政策の影響で長年使わなかった用排水路の整備に費用がかかる。国に要望してほしい。
- ・国がなぜ減反政策を行い、なぜ廃止したか説明してほしい。
- ・組合の目的は、耕作放棄地を少しでもなくし、食物を作り国土を守る。下流の災害を防ぐ。
- ・平成5年から蕎麦を始め現在は、21ha。令和5年度収支黒字になった。
- ・圃場整備100%終わった。中山間地のため農地は急傾斜、かつ畦畔の占める割合が大きく不整形そして面積の小さい農地が多く平坦地と比べると多大な労力が必要となる。
- ・米の単収量について、国・県は8.6俵だが阿木の単収量は7.5俵であり、地域の実情に合わせて決めてほしい。
- ・獣害対策を進めてほしい。
- ・米を作ると赤字。
- ・水田管理費として10aあたり3万円の交付金をお願いしたい。
- ・農機具倉庫等の建設費用が高い（5,000万円）。
- ・人材/農業後継者不足に対し指導願いたい。

参加者D（農事組合法人）

- ・経営面積が30ha。米、飼料米、大麦を作っている。組合員数32名で、常時出る人は3～4名、休日や農繁期で4名。
- ・数年、後継者が入ってこない状況で経営が困難になっていくと考える。
- ・アンケート：農業を続けたい40%、続けたくない40%。5年後後継者がいる25%、分からない44%。今後農業に参加したい50%。農作業は出来るが、草刈りを検討する必要がある。
- ・田の面積が8～9a位のため、300程ある。全部それが出来るか不安。
- ・コンバイン等の買い替えの補助金をお願いしたい。
- ・獣害対策の支援をお願いしたい。イノシシや鹿の被害が増えている。

参加者E（農事組合法人）

- ・経営面積は約30ha、水稻が28.6ha、野菜が1.4ha。水管理を8割行っている。
- ・野菜は、ジョイセブンの野菜狩りイベントを受け持つ。7～8名のパートで対応。
- ・水稻は常時3人位出ているが、繁忙期などは現役の会社員の方に週2日ぐらい休みに出てもらっている。
- ・基盤整備が進み、条件が備わっているため、効率の良い仕事が出来ている。
- ・後継者不足。
- ・40～50年前にあった2割程の農地の畦畔とか基盤が老朽化。圃場整備をお願いしたい。

参加者F（個人営農者）

- ・親元経営を引き継ぎ、11年目となる。今後は法人化を目指している。従業員5名。
- ・経営面積約55ha。内訳は水稻約45ha、大麦10ha。水稻は苗づくりから進めている。
- ・課題は基盤整備。苗木も、おそらく20年以上経っており、水路等老朽化が進んでいる。多面的機能を上手に使いながら補修等を行っているが、自分の地域が主体になっており、他の地域まで、なかなか手を出せないという状況。
- ・多面的機能は、集落母体で行う条件となっており、その集落全体に話をして入り込んでいかないといけないというデメリットがある。
- ・獣害対策で補助金申請が使いにくい。
- ・10年、20年、30年の後継者不足を考えたときに、所有者の方と話をし、上手に補助制度や交付金制度を取り組み、基盤を作っていかなければならないと考える。

参加者G（個人営農者）

- ・落合は、傾斜がひどくて起伏が激しい。細かい凸凹もあって、基盤整備をしたくても田の面積が少なくて集約が進まず、基盤整備ができない。
- ・ほとんど兼業農家で70歳以上。
- ・担い手としてやっているのは自分だけ。営農組合も無い。
- ・農家が減り、水路を管理する距離が伸び限界にきている。

意見交換

委員

- ・農業の情報提供は必要だが、例えばどんなことを伝えていくといいか。

参加者

- ・農業振興はこういう風にやるんだという市の情報や県の情報、国の情報を分かりやすく、地域に合うように噛み砕いた情報を流してほしい。

委員

- ・鳥獣保護管理法の特例があり、自分の土地で自分の農作物を守るために箱わな、捕獲柵（天井が半分以上が空いたもの）に限り、許可もなく自分でできるようになっているので、情報提供させて頂く。

参加者

- ・地主さんから農地を預かっている組織でも出来るか。

委員

- ・他人の土地はできないと思う。

参加者

- ・獣害対策を本当にお願したい。

参加者

- ・米価は25,000円より安かったらダメ。この値段は絶対必要だということは頭に入れておいてほしい。

参加者

- ・米は高いと言うけど全然高くない。日本の農業は日本の文化だと思って、どうしたら

若い人が後継者になってやってくれるか。若い人が農業をやると言ったら、どうしたらいいかを考えるのは議員の仕事。

委員長

- ・基盤整備は、団体営での基盤整備か。

参加者

- ・団体営ではなく田の集積を目的とする基盤整備。

委員長

- ・基盤整備を行うと個人負担金もあるので、それが大変ではないか。私たちがやった時は25%の負担があったので、負担金がかかなり大きく、借入れをしながら基盤整備してもらっている。市からは利子補給があると思うが、そういうところも問題になってくるかと思う。

参加者

- ・参加者Eが行っているのは100%国と県が負担してくれる中間管理事業で、博石館の近辺の約15haを農家の人がやりたいということでスタートした。令和6年の後半にその話が出て、今計画の段階で令和9年度に着工の計画。最初15haに8億円かかるという話で、手を挙げたが、一事業を5億円以内とする県の意向があり、15haの事業を5億円以内に絞らなければいけなくなった。3億円部分の農地が、工事ができなくなり、続けて計画すると2回目の工事が、何年先になるかわからなくなる。物価が上がって工事費も上がっているので、要件を8億円までにしていただけるようにバックアップをお願いしたい。また、区画整備してあっても現状の圃場面積が小さく、最低でも30a～50aぐらいでないと効率化できない。蛭川では20a以上の田があるかないかで、平均が5a～8a位。

国が集積すべきと言っているが、地主さんはもう一銭も金を出したくない。中間管理機構で行えば100%補助金が出るから、手をあげるが、そこに要件がついてくる。担い手組織、預かる側の担い手組織にも要件がついてくる。20%コスト削減をするか、20%収益が上がる作物をつくるかという要件。要件をクリアしながらでも農地を守りたいというのが、今どこの集落もある。一丸となって農地を守ろうという中で、行政の方にそういう問題を訴えてもらいたい。

機械1台概ね1,000万で、50ha管理しようと思うと、4台～5台が必要。また他の機械でも500万とか600万の機械を何年かに1台は更新していかないといけない。現状でも15台～20台ぐらい機械を保持している。減価償却7年だが、10年以上機械を利用していかないと次の機械が買えない。毎年一年に1,000万とか500万という金額を機械更新に向けないと農業経営ができない状態。また、現状で正職員7名に給料や社会保険を払って運営している。集落営農というのは、農場全体を集落で守りましょうということで、退職した方々も一生懸命になっている。農地を保全、守るということになると、蛭川でも200haの農地があるが、僕らの組織が、大きい農家1個になっている。500軒の農家があったのが、集落で守っていかなければいけない時代になってきている。そのような状況を鑑みながら、行政がどのように対応していったらいいか議会から質問して対応策を出してもらいたい。

副委員長

- ・本日参加された方の中で、後継ぎがいる方はどれくらいいるか。

参加者

- ・草刈りさえできない。

参加者

- ・農地を見ているだけ。自分の子どもにノウハウはない。

委員長

- ・本日は大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。皆様のご意見をもとにしながら、政策提言を考えていきたいと思っている。提言内容は、皆様にもお示しをしていきたいと思うが、すべて満足というわけにはいかないかもしれない。若い方の後継者も作っていかないと、日本の農業がダメになってくると思う。できれば参加者Fさんのように、会社を作っていきたいという人たちが増えてくれば、これ以上はないと考える。今日のご意見を参考に政策提言をさせていただくので、よろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。